

高齢者のアセスメント（評価）

東海社会福祉科学研究所

大北 秀雄

高齢者の問題点・課題を整理することで、評価の内容ははっきりしてくるものと思われま

す。長期目標に基づく評価であれば、前回のケアプランを中心に判断することになります。前回時のケアプランを作成した時点から、利用者がどう変化したのか、あるいは状況がどう変わったのかなどを的確に捉えることになります。

（1）留意事項

- ① 利用者の気持ちの状態
- ② 家族の支援等の状況
- ③ 事業者のサービス提供に対する評価
- ④ 医療機関等の意見
- ⑤ 行政等の意見
- ⑥ 地域等の関わり

などを、ケアマネジャーとしてどうまとめていくかになってきますが、その長期目標期間の動き、流れ、変化を適切に整理することも必要となってきます。

（2）ケアプランの目標

介護保険での目標は、長期目標（概ね6ヶ月～1年間）及び短期目標（概ね3ヶ月）を立てることにより、サービスの提供を実施しています。その記載内容については多くの例が示されておりますが、ケアマネジャーとして、利用者・家族等に理解していただける内容になっているのか、また、その内容が的確に表現されているのかを悩んでいるものと思います。

（3）目標設定の整理

知的障害者等の援助・支援にかかる目標設定は、長期目標として3年間程度の計画を策定し、1年目、2年目、3年目の内容を明確にしていけます。

その人の人生を考えてどう支援・援助することがベターなのか、目に見えてくるのが大切な視点ではないかと思

います。人は、いろいろの人生を歩んできていますし、これからもいろんな人生を歩んでいくことですから、その人がその人らしく生きていくことが大切ですので、その支援・援助を検討してください。

（4）目標に対する評価

目標に対して現実はどうだったのかを、考えることが評価だと思います。その経緯を見るにあたって、上記の留意事項を検討してください。

短期目標についても同じような視点が必要ですが、変化の大きな人ははっきりと見えますが、3ヶ月程度での変化・成果ははっきりしないのが一般的です。目標の中においては短期により、変化・成果を考えている場合もありますので、その場合は注意して観察するように心がけてください。また、関係者の意見等を必ず考えていくことが大切です。